

かすが たかし  
春日 隆司 議員



# 先人が築いてきた「循環型森林経営」がくずれている

町長 非常に困難で、あくまで目標である

## 「循環型森林経営」を守り、よい形で次世代へ

**質問** 先人が大変苦勞して築いてきた循環型森林経営（毎年50畝伐つて植える）がくずれています。担い手となる森林組合（以下「組合」）の労務班も3分の1に。

町長の時代でくずしているのでしょうか。これを守りよい形で次世代に伝えるという役割があるのではないのでしょうか。

**町長** 非常に困難で、それはあくまでも目標値としている数値であります。

**再質問** 半世紀かけて築いてきたものです。なぜ、努力して次に伝えようとしないのででしょうか。挑戦する気構えを持ち、しっかりと次世代へつなげていくことが必要と思います。

森林経営の担い手となる森林組合との関係をどう構築するのでしょうか。町民の財産である町有林の収支を明確に示してほしいと思います。

**町長** 不明瞭なところがあ

証しながら、今後明確にできるように進めてまいります。

## 林業センター取り壊し

**質問** 林業センターは産業の核エリアとして森林組合に入っていたいただいた経緯があります。議会から「しっかりと森林組合と協議して対策方針を策定すべき」と意見を付しているが、協議せず令和4年度に取り壊す方針を示したがどうなっていますか。

**町長** 色々な方法論があると思います。今回は町の考え方を示し進めてきました。今後森林組合と議論しながら、どういう選択肢があるのかしっかりと定めていきたいと思います。

## 移住政策を改めるべき

**質問** 転入者が多くなっている一方、平成22〜26年とその後の5年間の転出入を比べると転出者が非常に多く、また働く世代が減っている問題があります。移住

者受入の情報発信を見ると「怒られたら取り下げよう、やったもん勝ち」と。こういう形で受け入れているのが実態。税金を投入しての政策。単に誰でもいいから足腰の強い移住政策に方針を改めるべきではないでしょうか。

**町長** 数字だけ捉えると非常に厳しいものがあるが、受け皿のシンクタンクをつくりながら、相談窓口を設け、これまでも60数名の方々に移住していただきました。移住政策は今後も維持しながら進めていきたいと考えています。コロナ禍の中で、移住希望者が増えていきます。条件をしっかりと聞きながら、条件に見合う環境整備を進めてまいります。

## 魅力ある施策を

**質問** 下川が今まで築いてきた魅力は魅力でなくなってきました。これからは町長自らつくり上げなければなりません。それはみんなです。良いまちをつく

るための決意をお聞きします。

**町長** 総合計画、私の公約も含めてそういう方向性をつくっていきたいと思っています。

## 求められる「実態を公開」する姿勢

**質問** 菓子事業の中止で、令和元年12月議会「町長の行政に関する信頼回復」を決議しました。それから約1年間正式手続きが取られないまま、議会の指摘に町長は「先方と連絡が取れないからどうしようもない」と。そして再指摘でやっと行動に移し、10月末、正式に契約破棄。なぜ町民への報告（行政報告）をしないのでしょうか。

**町長** 最終的に連携協定を閉じさせていただいた。事務的に終えたということ。町民へ報告をしないとの結論に至りました。

**再質問** 町民に知らせない姿勢は民主的な町政ではないと思います。